

平成28年度 学校自己評価システム取組状況調査報告書より「優れた取組」について

県立学校の第三者評価において優れた取組・工夫と評価された取組の所見とその内容を評価の観点順に御紹介します。

高等学校9校： 上尾高等学校、上尾南高等学校、桶川高等学校、芸術総合高等学校、越ヶ谷高等学校、鶴ヶ島清風高等学校、所沢高等学校、豊岡高等学校、三郷北高等学校

特別支援学校2校： 上尾特別支援学校、所沢特別支援学校

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	芸術総合高等学校	芸術系専門学科の趣旨や特性を踏まえ、適切かつ明瞭な、インパクトのある学校像が設定されている。学校の置かれた状況や課題、寄せられる期待が的確に把握され、広く保護者や地域にも浸透している優れた学校像である。	目指す学校像「世界で活躍するアーティストを輩出するアカデミー」は芸術系専門学科の趣旨や特性を踏まえ、平成25年度に設定された。夢があり、インパクトのある学校像であり、誰でも1度耳にすれば口ずさむことができるフレーズである。学校として目指す方向が、簡潔に示されている学校像であり、生徒・保護者・地域などの期待やニーズに十分応えるものとなっている。 また、設定以来、学校要覧や学校ガイドなどの発行物や学校ホームページ等に掲載し、学校説明会等で中学生・中学生の保護者などにも熱心に広報した結果、現在では広く保護者や地域にも浸透しており、優れた学校像となっている。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	所沢特別支援学校	前年度に将来構想プロジェクトチームが中心となって策定した「5年後の所沢特別支援学校に向けて一学校改革のアウトライン」に基づい	所沢特別支援学校は、今年度学区再編成を受け、高等部が県立入間わかさ高等特別支援学校に移管されたため、小・中学部のみ義務制単独校となった。そのため、昨年度は将来構想委員会で学校改革の方向性について確認し、教職員が「新校になる」という意識で教育活動の引き継ぎ等を準備してきた。新年度を迎えるに当たり、新しい目指す学校

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。		<p>て取り組むべき課題が具体的に示され、日々の教育活動の指針となる目標となっている。</p> <p>児童生徒の実態や保護者・教職員などの意見や要望、様々な資料を反映した、中期的な目標としてふさわしい簡明で優れたものとなっている。</p>	<p>像と重点目標について検討してきたが、目指す学校像については上位目標である学校教育目標と共に時間をかけて検討することが適当であるとの結論に至り、重点目標のみ新しく設定した。</p> <p>重点目標の設定に当たっては、昨年度、支援委員会の中の将来構想プロジェクトチームが中心となって策定した「5年後の所沢特別支援学校に向けてー学校改革のアウトラインー」が考え方のベースになっている（支援委員会は平成28年度より支援部に組織改編）。ここには、今後5年間のスパンで学校改善に取り組んだ結果どのようなことが定着した学校になっているかといった視点で、目指す学校の姿、取組の到達点や取り組むべき課題が具体的に示され、日々の教育活動の指針となっている。また、地域の特別支援教育システム整備拡充の核としての役割を果たす学校、知的障害特別支援学校義務制単独校としてのモデルを全県・全国に発信できる学校を目指そうという教職員の気概が表明されている。</p> <p>今年度当初、将来構想プロジェクトチームにおける検討事項が職員会議において詳細に報告され、教職員の共通理解の下、新たな組織体制において重点目標の設定を行った。</p> <p>児童生徒の実態や保護者・教職員などの意見や要望、様々な資料を反映した、中期的な目標としてふさわしい簡明で優れたものとなっている。</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	上尾南高等学校	<p>基本的な生活習慣の確立等の重点目標を挙げ、その達成に向けて全教職員の共通理解を図り、学校・分掌・学年・個人の目標を連鎖させ、組織力を高めている。教職員が情報を共有し、きめ細かな生徒指導を行う「注意記録」の取組や全教職員が協力して組織的に行う登校指導など、分掌、学年等が緊密に連携しながら厳しさだけでなく温かさを持って目標達成を目指す体制が整えられ、優れた取組が実践されている。</p>	<p>重点目標に「熱意ある積極的な生徒指導で、基本的な生活習慣を確立する」を挙げている。この目標の達成に向けて学校全体のシートや分掌等のシート等を活用しながら、学校・分掌・学年・個人の目標の連鎖を十分に行い、全教職員の共通理解の下、同一歩調で、組織力を生かした積極的な生徒指導に取り組んでいる。具体的には、生徒指導上の情報を共有し、きめ細かな指導を行う「注意記録」や、日常的に全教職員が協力して行う登校指導の取組など、分掌や学年等が緊密に連携して、全教職員が同じベクトルをもって組織的に取組を実施している。その取組等により、方策の評価指標としている注意記録指導者数等の減少を目指している。また、重点目標の達成に向けて、学校全体で組織的に中間報告を実施している。</p> <p>ホームルーム経営においても、各教員が生徒・保護者と信頼関係の構築に努めている。生徒の実態等を踏まえながら、厳しくも温かい指導をきめ細かく行い、目標達成を目指す組織的な体制が整えられている。このような継続的・組織的な取組により、遅刻者数等の減少など、大きな改善が見られ、規律ある落ち着いた学校となっている。</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	越ヶ谷高等学校	<p>組織体制が整備され、教育課程の大幅改訂など、学校自己評価システムに基づく取組が実施されている。中間評価の実施により、進捗状況を把握し目標管理を確実にしている。評価項目や方策が、重点目標の達成に向けて本年度重点的に取り組むものとしてふさわしく、優れた取組が実践されている。</p>	<p>年度当初に、「学校自己評価及び人事評価の実施手順」（進行管理スケジュール）を教職員に提示している。分掌・年次・教科のシートは学校全体のシートが完成した後に、各分掌等が会議を持ち、前年度の課題を踏まえ作成しているが、先行して前年度の課題の整理と今年度の改善策については、各分掌等の主任が中心となって検討を進めている。また、分掌・年次・教科のシートは、学校全体のシートとの連鎖が見やすいレイアウトになるよう工夫し、学校全体の重点目標と連鎖した分掌等の目標を設定している。</p> <p>10月には、評価運営委員会において各分掌等の取組状況を確認し、中間評価を行い、職員会議で共通理解を図っている。その際、生徒・保護者を対象に実施したアンケートを考察し取組状況を把握するなど、目標管理を確実にしている。実効性のある進行管理が適切に行われ、実際に取組を進めている分掌や年次等の教職員が達成イメージを共有できる組織体制が整備されている。</p>
		鶴ヶ島清風高等学校	<p>評価運営委員会・企画委員会と分掌・学年・教科が連携し、学校自己評価システムが運営されている。分掌・学年・教科が連携しながら目標達成を目指す組</p>	<p>「学校評価システム年間計画」を作成して、学校全体の動きと評価運営委員会・企画委員会、分掌・学年・教科、学校評議員会、生徒、保護者、地域と教員各自の自己評価の動きを一覧表にして相互の関連を矢印で示すなど、工夫をしている。また、年度の目標を設定するに当たって、単年度目標という意味を十分に踏まえて、重点的に取り組む目標、方策を設定しており、全体シートと分掌・学年・教</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。		<p>織体制が整備され、適切な方策が策定されている。</p> <p>年度当初に学校自己評価システムの年間計画が示され、様々な資料の分析結果を共有して取組を検証しており、優れた取組である。</p>	<p>科シートとの連鎖がしっかりと図られている。そのため、教職員のベクトルがしっかりと同じ方向に合わされている。例えば、最も大きな課題である生徒1人1人の基礎学力定着を目指すことを学校像に掲げ、今年度の評価項目には授業改善と自主学習の取組の推進を挙げている。この評価項目については教務部と進路指導部、図書視聴覚部と1学年・2学年・3学年、さらに、全ての教科がそれぞれの方策を掲げて取り組んでいる。</p> <p>教職員がいつ何に取り組めばよいのかを明確に示し、学校自己評価を見える化することにより、全教職員での共通理解・連鎖・連携がしっかりと図られ、学校全体で優れた教育活動が展開されている。</p>
		所沢特別支援学校	<p>評価運営委員会と学部・分掌・委員会が連携し、学校自己評価システムが組織的に運営されている。太田ステージ評価を中心に校内研修会・保護者研修会を実施して教職員全体の専門性を高め、組織的に児童生徒の指導・保護者や地域への支援に取り組むなど、評価項目や方策が、重</p>	<p>重点目標の達成に向けた組織体制については、評価運営委員会と学部・分掌・委員会が連携し、学校自己評価システムが組織的に運営されている。太田ステージ評価を中心に校内研修会・保護者研修会を実施して教職員全体の専門性を高め、学校組織としての支援力を高める取組を継続的に行っている。また、太田ステージ評価を活用し、個別の手立てや合理的配慮を具体的に検討し、個別の指導計画（プランB）を作成して教職員と保護者の間で丁寧に共通理解を図っている。通知表についても児童生徒の変容に着目した様式に変更し、一人一人の支援や指導を保護者と連携して充実させる取組を積極的に行っている。</p> <p>組織的に児童生徒の指導や保護者・地域へ</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。		点目標の達成に向けて本年度重点的に取り組むものとしてふさわしく、優れた取組が実践されている。	の支援に取り組んでおり、評価項目や方策が、重点目標の達成に向けて本年度重点的に取り組むものとしてふさわしく、優れた取組が実践されている。
		三郷北高等学校	学校全体のシートに基づいて分掌・学年・教科のシートが作成されるなど、重点目標達成のための取組が進められている。中間評価の実施による進捗状況の把握や学校関係者の意見の活用など学校自己評価システムが組織的かつ適切に運営されており、優れた取組となっている。	分掌・学年・教科のシートは、学校全体のシートを踏まえて、各分掌等の主任が中心となって作成している。平成26年度から中間での達成状況を把握するために、9月下旬から10月初旬に生徒・保護者アンケートを行い、分掌・学年・教科で中間評価を実施して、進捗状況の整理・修正を行っている。シートの様式については、中間評価（10月1日現在）の欄を設け、進捗状況の整理・修正がしやすいよう工夫をしている。また、学校自己評価システムシートの重点目標の番号と各分掌等のシートの目標の番号との連鎖に留意し精査をしている。 学校全体のシートに、中間評価及び11月以降の課題と改善策の欄を便宜上設け、各分掌等のシートに記載された中間評価の結果を踏まえ、集約している。職員会議で共通理解を図るなど、実際に取組を進めている分掌や学年等の教職員が達成イメージを共有できる進行管理を組織的かつ適切に行っている。
	なし			
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。			

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	上尾高等学校	<p>校長が学校の課題等を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、「上高の未来をデザインするチーム」を立ち上げアクティブ・ラーニングの研究を進めるなど意欲的に取り組んでいる。校長が的確にリーダーシップを発揮して、分掌・学年等から業務改善に向けた意見を収集し、校務全般の効率化による組織の見直しを図るなど、教職員の共通理解の下、組織的な優れた取組を展開している。</p>	<p>昨年度「上高の未来をデザインするチーム」を設置し、新しい大学入試制度への対応や、授業改善に向けたアクティブ・ラーニングの研究を進めるなど、中・長期的な課題の解決につながる取組を行っている。このチームは分掌など既存の組織の枠を超えたもので、ベテラン教員と若手教員による主体的な運営が行われている。教職員が自由にディスカッションを行い、学校教育活動を推進している。</p> <p>校長が的確なリーダーシップを発揮し、学校全体の業務改善を図っている。煩雑な状態になっている校務の効率化（スリム化）に向け、企画委員会を中心に、学校を挙げて取り組んでいる。具体的には、分掌や学年等から業務改善についての具体的な意見等を集約して、段階的に検討している。これらの組織的な取組により、学校教育活動の重点化など、学校改善を進めている。</p>
		上尾特別支援学校	<p>校長が的確にリーダーシップを発揮し、学校の中・長期的な課題を析出して、課題解決に向け組織的に取り組んでいる。若手教員等の授業力・専門性向上に</p>	<p>校長が的確にリーダーシップを発揮し、前年度の年度評価や学校関係者評価などを基に、課題を丁寧に析出し、次年度の具体的な目標や方策等につなげている。「私たちの宣言」として「OTR（※）」を掲げ、その理念の下、課題解決に向けた様々な取組を行っている。例えば、授業力向上や自立活動等における専門性向上等の課題の解決に向けて、今年度から教職員の学び合いを生かした</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。		向けた「Rainbow Teacher 制度（教職員校内支援制度）」の実施など、教職員が全体の目標を理解した上で、適切に連携して全校を挙げての優れた取組を行っている。	<p>「Rainbow Teacher 制度」等に取り組んでいる。この制度はキャリア段階Ⅱ及びⅢの教職員に、得意分野や支援可能な領域等を自己申告してもらい、若手教員等が指導助言を依頼できる仕組みとなっており、全校的な教員の支援体制となっている。</p> <p>センター的機能に関する地域からのニーズが増大している状況の中、組織的な対応を行うため、及び後継者を育成するため、コーディネーターを複数配置するなど、組織面においても、具体的な改革を行っている。</p> <p>※ OTR = Over (Organization 組織) The (Trust 信頼) Rainbow (Reserch & respect 研修・尊重)</p>
		所沢高等学校	校長は普段から頻繁に自ら足を運ぶなど教職員とのコミュニケーションを大事にしており、学校評価委員会・職員会議において、学校の課題等に関する教職員の共通理解を図っている。校長のリーダーシップが的確に発揮され、シート作成に関して計画的に十分な時間をかけて次年度	<p>目指す学校像に「大きな夢と高い志を抱き、世界で活躍できる人材を育成する学校」を掲げ、教職員が一丸となって高い理想を追求している。校長は教職員に「校長は同時に3人校内に現れる」と驚かれるほど頻繁に自ら校内の各所に足を運び、教職員とのコミュニケーションを大切にしている。また、学校評価委員会・職員会議において、学校の課題等に関する共通理解を図っている。年度末のシート作成については、管理職からスケジュールを示し、学校評価委員会を中心に次年度への課題の取りまとめや方針策定を行い、計画的に十分な時間をかけて協議することとした。その結果、次年度のシート作成へスムーズにつなげることができた。</p> <p>年度当初の分掌・学年・委員会のシート作</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。		への課題の取りまとめや方針策定を行うなど、学校評価委員会が適切に機能しており、教職員全体で組織的な優れた取組を展開している。	成については、学校全体のシートと目標の連鎖を図り、重点目標の番号と記載を合わせている。また、組織のシート以外にも教職員個人のアイデアを吸い上げる仕組みが構築されており、個人と組織の連鎖も意識されている。校長が適切にリーダーシップを発揮して、学校自己評価システムを活用して学校の教育活動の改善を図っており、教職員全体で組織的な優れた取組を展開している。
		豊岡高等学校	校長が学校の現状を踏まえ、「基礎基本の徹底」を明確な学校経営の方針として示し、目指す学校像の実現に向けて生徒・保護者・地域が一体となって取り組むことができるよう、課題や目標の共通理解を図っている。校長のリーダーシップが的確に発揮され、学校評価運営委員会が適切に機能しており、教職員全体で組織的な優れた取組を展開している。	<p>校長が県教委の再編整備計画に則った学校経営の方針を教職員に示し、「基礎基本の徹底」をキーワードに学校自己評価システムに組織的に取り組んでおり、全教職員の共通理解が的確に図られている。</p> <p>大学進学重視型の単位制高校というビジョンがよく共有され、進学実績向上・伝統校の復活などベクトルを合わせて組織的に取り組んでいる。学校評価運営委員会を校内の情報中継地点として適切に機能させ、課題の解決や目標達成に向けて様々な実践を行っている。</p> <p>また、若手教員を中心に、分掌の取組に横串を指す役割を果たす「針路構想委員会」を立ち上げ、教職員が積極的に学校経営に参画し、ボトムアップの意見を表明しやすい環境を作っている。</p> <p>校長のリーダーシップが的確に発揮され、学校評価運営委員会が適切に機能しており、教職員全体で組織的な優れた取組を展開している。</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	桶川高等学校	アンケート結果や学校関係者評価、地元中学校からの聞き取り調査など、取組を検証するための情報収集を積極的に行い、検証の結果、次年度の評価指標の数値を設定するなど、CAからPDへのつながりを意識して継続的に取り組んでいる。質問内容を年度ごとに見直すなどアンケートの実施目的を明確にし、丁寧に分析した結果を分かりやすく公表して改善・更新に生かすなど優れた取組を行っている。	<p>生徒や保護者、地元中学校に対して、実施目的を明確にし、アンケートを実施している。課題解決のために必要なデータが得られるよう、質問内容を毎年変更するなど、実施方法を工夫している。回答形式は1～4を選ぶ4択であるが、集計結果を数値だけでなく、A（8割以上）B（6割以上）C（4割以上）D（4割未満）の4区分に分類して表記するなど、傾向や次年度の努力点が分かりやすいものとなるよう工夫している。得られた分析結果を基に、課題及び改善策を明確にし、教職員全体で共通理解を図っている。</p> <p>管理職員が中心となって、地元の中学校（約30校）に対してアンケートを実施し、学校の印象や期待することなどについて情報収集している。生徒・保護者アンケートや、地域の中学校を対象としたアンケートの集計・分析結果については学校ホームページで公表し、フィードバックしている。</p> <p>前年度のアンケート結果や学校関係者等の意見等を踏まえ、CAからPDのつながりを特に意識し、次年度の目標や方策、評価指標等の改善・更新を意欲的かつ継続的に行っている。</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	上尾南高等学校	<p>生徒・保護者アンケートを実施し、授業満足度など学校自己評価のための情報収集が行われている。「上尾南メール」等の有効活用など、教職員と保護者が緊密に連携することにより、保護者アンケートは97%を超える高い回収率となっている。</p> <p>CAからPDのスパイラルアップを意識して年度評価や学校関係者評価などを基に新たな課題を明確にし、重点目標や次年度の目標・方策に適切に引き継がれており、優れている。</p>	<p>2学期末に生徒・保護者アンケートを実施し、授業満足度や進路指導満足度など、学校自己評価のための情報収集が行われている。</p> <p>「上尾南メール」の積極的な活用や、教職員と保護者の連携の良さ、学年・学級担任による熱心な指導により、保護者アンケートの回収率は学校全体で97.4%となっている。</p> <p>アンケートの分析結果については、職員会議等で情報共有し、生徒・保護者に対してもフィードバックしている。</p> <p>学校評価懇話会で出された意見を職員会議等で全教職員で情報共有するため、毎回議事録を作成している。学校の取組を検証するための情報収集を様々な角度から意欲的に行っている。年度評価や学校評価懇話会で得られた学校関係者からの意見等を基に、生徒募集における工夫改善など、CAからPDのスパイラルアップを意識しながら、解決すべき新たな課題を明確にしている。重点目標を始め次年度の目標・方策等の見直しを学校全体で共通理解を図りながら進めている。</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	越ヶ谷高等学校	<p>生徒・保護者に対して年2回のアンケートを実施し、学校関係者の意見などを考察して、達成状況の把握を行っている。</p> <p>その結果を評価・反省に生かして、次年度の課題・改善策として適切に引き継ぎ、評価項目や具体的方策で重点化を図るなど、課題解決に向けて組織的に取り組んでおり、優れている。</p>	<p>生徒・保護者向けアンケートを10月と12月に実施し、達成状況の把握を行っている。</p> <p>方策の評価指標に照らして、達成できていない項目については、具体的な数値を職員会議で説明し、教職員間で共通理解を図り、達成に向けての検討を行っている。</p> <p>また、保護者アンケートで集約した意見や要望については、企画委員会で考察・検証し、次年度の課題・改善策として適切に引き継ぐとともに、評価項目や具体的方策の重点化を図っている。今年度は、「家庭学習時間2時間確保」、「部活動と進学講習の区分け」、「授業改善の組織的な取組」等について、新たな評価項目と具体的方策を設定し、課題解決に向けて改善・更新を行っている。</p>